

街暮らしの新たな魅力を見つけるために

街なかで自分らしく暮らす人～団体編～にお話を伺いました。

佐賀大学 芸術地域デザイン学部
山下研究室

Profile

山下宗利教授 専門分野：都市地理学
学長補佐（芸術地域デザイン学部副学部長）として教育研究、組織運営、地域貢献に勤しんでいる。
1990年に佐賀大学教育学部に赴任以後、地理学を担当して現在に至る。佐賀市中心市街地の活性化に取り組む。趣味は佐賀近郊の山歩き。

フィールドが実験室だ

みなさん、こんにちは。佐賀大学芸術地域デザイン学部の山下です。本学部は、これまでの佐賀大学にはなかった新しい要素が加わった若い学部です。この記事のメインは、わたしではなく、芸術地域デザイン学部の学生と教育内容です。学部には芸術表現コースと地域デザインコースの二つのコース（1学年は各55名の計110名）があるので、今回は後者の地域デザインコースの学生たちがいかにスゴイのかを以下にご紹介したいと思います。

女子学生が多いのですが、男女とも発想力、探究心、行動力には豊かなものを持っています。人前でのプレゼンテーションをものとせず、自ら進んでドントン前へ出ようという強者もいます。かれらを一言で表現すると、「アートに興味を抱き、地域に関心を持つ学生」となります。わたしが担当しているフィールドデザイン分野には、とくに地域に大いに関心を持つ学生が集まっています。都市デザイン、まちづくり、観光、文化財の保護、地域の特産物が好きだとう若者です。

佐賀には佐賀固有の文化がこれまで蓄積されてきました。そこで外部から全く異質なものを持ってくるのではなく、佐賀の地域資源を丹念に掘り起こし、それらをうまく活用することによって地域の活力を生み出してもらいたい、とかれらに期待しています。またそうすることができれば、地域の主体である住民が自分たちの生活空間がこんなにも素晴らしい場所であったのかという気づきにつながり、地域の誇りが生まれ、地域の歴史文化の再評価に結びつきます。これこそが真の地域活性化であるとわたしたちは考えています。

佐賀市の中心市街地でのフィールドワークが最初の授業です。佐賀市外からも学生が集まるため佐賀の中心市街地が初めてだという学生もいます。佐賀玉



あなたの、かかりつけ薬局。

地域とともにくすり屋 107年
ミズ・溝上薬局

<http://www.miz-pharmacy.co.jp/> ミズ 検索

街なかかわらばん INFO ごあんない

ご意見・ご感想、お問い合わせはコチラへ

街なかかわらばん 編集室

TEL 0952-22-7340
FAX 0952-22-7346
MAIL kawaraban@humanite-saga.com

佐賀大学の美術系の課程や佐賀北高校の芸術コースなどの影響もあり、佐賀の街には案外アートに関わったことのある人が多いようです。これからもクリエイティブな流れが街なかに広がればなあって思います！（編集長 庄野雄輔）

●アートディレクション・デザイン／松本健児(PINEBOOKS) ●イラスト／山本翔(CIEMA) ●ライター／茶圓彩、庄野雄輔、清家麻衣子、谷口幸恵、田村史子

人とまちをつなぐ新聞

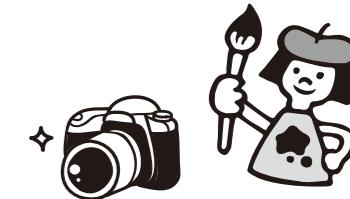
街なかかわらばん

TAKE FREE
さが

2018.3.15号
no.30
Machinaka Kawaraban

街なかのおすすめ賃貸情報更新中！

www.kawaraban-web.com



「街のお店とアートとあれこれ」

～店とか職人とかギャラリーとか～

単にアートって言葉だけ聞くと、ちょっと敷居が高く感じてしまうかもしれないけれど、アートって見方や表現方法など人それぞれ。ギャラリーだけでなく、お店や様々な街の活動の中にも、アート的な要素は散らばっています。今回はそんな堅苦しくない街なかのアート関連情報を紹介します。

01 アートが散りばめられた空間を提供するカフェ

トネリコカフェ

記者
星とヨコハマ好きな女子ライター
茶圓 彩

「レトロな空間！素敵！」私が思わずそう感じたお店が「トネリコカフェ」。1970年、現在の店長である岡野さんのご両親が、「文化の香りがするお店を作りたい」という思いで、佐賀市中央本町に開業しました（その後現在の白山に移転）。ここは佐賀大学生との交流もあって、20数年前からカフェだけでなくギャラリーとしての役割も果たしています。展示内容は定期的に入れ替わっており、なんと今後のスケジュールは年末までびっしり。街のギャラリーとしてすっかり定着しているのが伺えます。こんなトネリコさんには、店長岡野さんのいろいろなこだわりが散りばめられています。その一つがインテリア。扉を開けた瞬間に目に入る素敵な作品はもちろん、こと御手洗いに至るまでアートの要素がたくさん。あと店内BGMやたまに開催される音楽イベントにも、岡野さんの「居心地の良い音楽の中、五感でアートを楽しんで欲しい」という想いが込められています。そんなこだわりのおかげで、アート作品を眺める人やアーティスト自身、アートの目利きなど様々な人々が自然と交流する場、つまりアート知識の深さに閑わらず様々な人々がくつろげる素敵な場所になっているのです。ちなみに直近の店内展示情報。現在はお店のアルバイトスタッフである佐賀大学生の作品が展示されていて、その後は福岡のアーティスト、SHINRIさんの作品を予定しているそう。是非アートを眺めながらコーヒーでもどうぞ！

[INFORMATION]
トネリコカフェ ☎0952-1978-0993 ●佐賀市白山2-5-19 ●営業時間／月～金曜8:00～18:00、土・日曜10:00～18:00 ●定休日／祝日、不定 ●駐車場／なし



▲店の入口からアートの世界が広がります。



▲主に壁面にいつも作品が並びます。

▲岡野さんが選ぶ「居心地の良い音楽」。

02 自分が「好き」と感じる作家さんの作品を、佐賀の人に触れてもらいたい

ギャラリー遊

記者
街なかの愛の伝道師
庄野 雄輔



ギャラリー遊は、1988年にスタートし今年で30年を迎える老舗ギャラリーです。オーナーは高祖かず子さん。長年アートに対する明確なスタンスを持ちながら、ギャラリーの展示企画だけでなく、染物や織物の作家活動にも取り組んでおられます。彼女が展示企画で大事にしているのは、どんなに遠い場所でも自分が『好き』を感じた作品の作家さんに直接会いに行き、展示の開催に結びつけるというスタンス。そういう作家さんと互いに思いを交わし、関係を長く大事にされているそうです。また彼女には佐賀ではなかなか見ることができない作品を佐賀の人に触れてほしいという気持ちも強くあります。だから月一回ペースで行うギャラリー展示は、主に県外の作家が中心です。彼女のこのような行動力と思いは広報面にも表れていて、毎回各メディアに自身で出向くし、DMも一枚一枚気持ちを込めて作成されています。「いいものを作っている作家さんは、特別に感度が高い。だから自分の『好き』という気持ちをわかっていただき、展示が決まったときは、すごくうれしい。でもいつも本当にお客様が来てくれるかどうかドキドキしているんですよ！」と話す高祖さん。こんなアートに対するまっすぐな行動力、是非見習いたいと思いました。

[INFORMATION]
ギャラリー遊 ☎0952-23-4997 ●佐賀市白山2-4-15 ●営業時間／11:00～18:00※変動あり ●定休日／不定 ●駐車場／あり（駐車場は要問合せ） ●HP／<http://http://gallery-yuu.net/> ●直近の個展（予定）／『サトウノリコ展』（草木染め）会期：3/24（土）～3/30（金）11:00～18:00※最終日は17:00まで